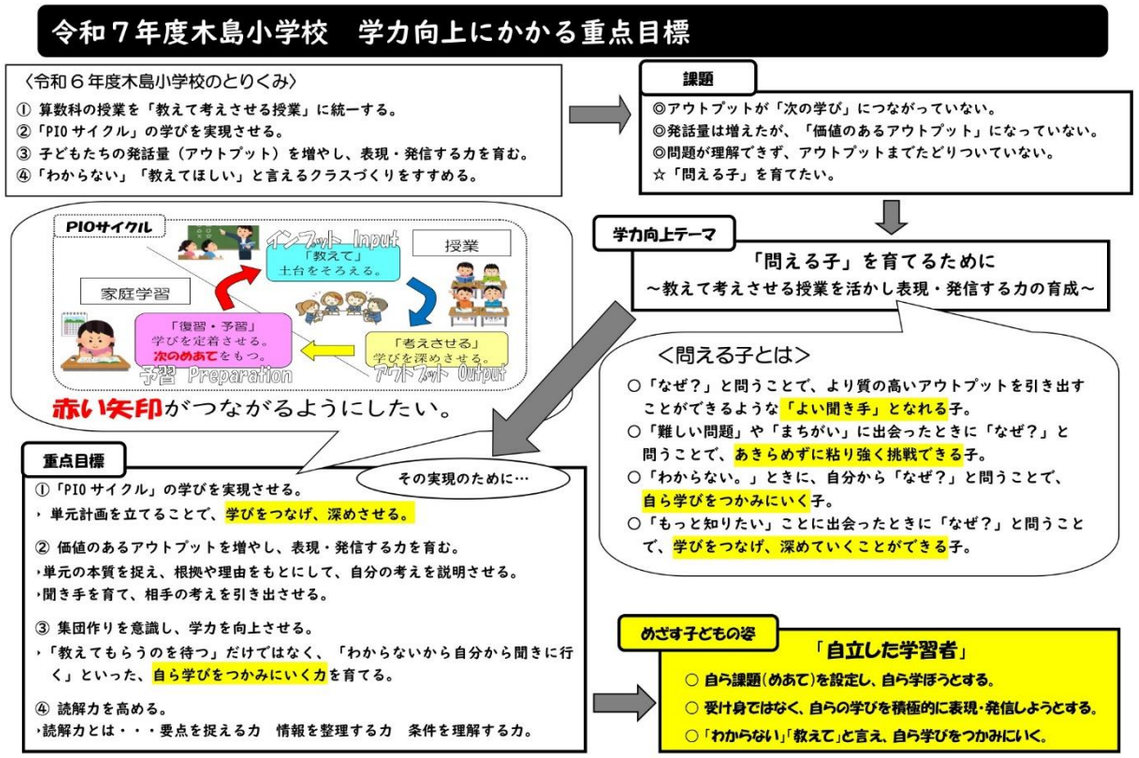
令和７年度
確かな学びをはぐくむ学校づくり推進校

５年 算数科 合同と三角形、四角形

貝塚市立木島小学校

令和７年度のとりくみについて

木島小学校では、令和 6 年度より目指す子どもの姿を「自立した学習者」と設定し、算数科を中心に研究してきました。算数科の授業を「教えて考えさせる授業」に統一することで、自分でめあてを持つ子どもが増え、話し合い活動が活発になってきました。しかし、発話量は増えましたが、価値のあるアウトプットになっているのか、アウトプットが次の学びにつながっているのかという課題が見られました。そこで、令和 7 年度のテーマを『「問える子」を育てるために～教えて考えさせる授業を活かし表現・発信する力の育成』と決めました。今年度の詳しい内容は、下記になります。



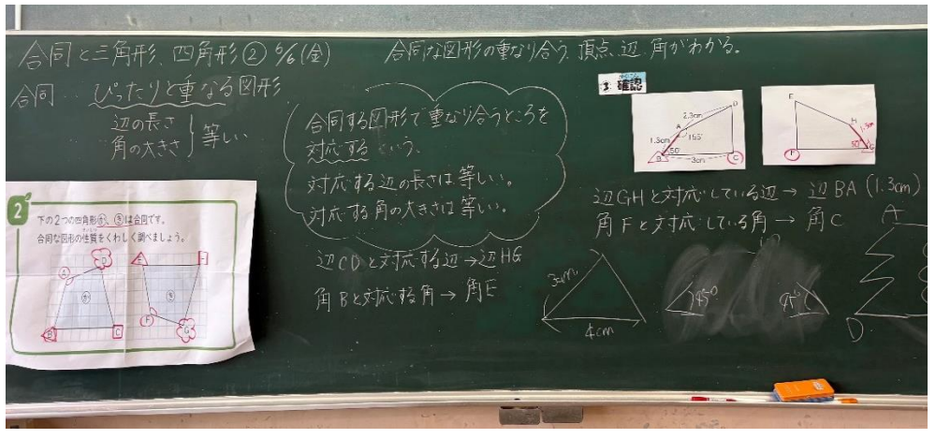
令和 7 年度の大きなとりくみとしては、算数科で「単元計画を子どもが立てること」と「単元の途中で小テストを行う」ことです。単元計画を立てる目的は、単元全体を俯瞰的に捉え、学びをつなげ、深めさせることです。また、単元の途中で小テストを行うことの目的は、子どもの躓きを早期に拾うことや教師の授業改善を単元途中で行うためです。

大きなとりくみとして2つ挙げましたが、学力向上は、人権教育が土台にあると考え、人権担当とも連携しながらとりくんでいこうと考えています。

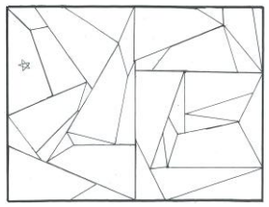
６月６日（金）研究授業について

主な学習内容

①単元計画を立てる。
②形も大きさも同じ形を見つける。
③合同な図形の重なり合う頂点、辺、角を見つけ、四角形の合同条件を理解する。（本時）
④四角形に対角線を書いたときにできる三角形が合同であるか説明する。
⑤合同な三角形の作図に必要な要素を考え作図する。
⑥合同な三角形が作図できる要素や作図の仕方について理解を深めて、説明する。
⑦合同な四角形を作図し、説明する。
⑧三角形の３つの角の大きさの和が180°であることを説明する。
⑨四角形の4つの角の大きさの和が360°であることを説明する。
⑩多角形の意味を知り、内角の和の求め方を説明する。
⑪三角形や四角形の内角の和の性質を使って求める。しきつめる学習を通して、図形感覚を豊かにする。



チャレンジ
☆と合同な四角形を見つけましょう。



講師：東京大学 大学院教育学研究科 教育心理コース 准教授 植阪 友理氏

【事後討議】

☆子どもたちのパワーを授業の中で生かしていけるといい。
◎物や図をつかい、単元の学ぶべきポイントを話し合う。
☆教科書をうまく活用する。
　OKJ は「受容学習」な部分があるので、確認で使う問題を説明の時点で教えておく必要がある。
　日本人は、ノートや黒板に責任を持ちすぎているので、書かせることを目的とせず、頭にのこすことを目的とする必要がある。（始め10分ぐらいの子どもの集中をノートを書く時間に使わない）
☆プロセスを共有化する。
◎できる子のたどり着き方を明示化する方法として「自分で問題をつくり、解説動画をとる」がある。